

Info 1

第5回 若手臨床研究発表会 (個の医療研究会共催)

- 日 時 : 2015年5月30日(金) 18時30分～19時30分
- 場 所 : 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演1 : 「未定」
演者 : 循環器内科 医長 本庄 友行
- その他 : 日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。
- お問い合わせ先 : 総合医学研究センター 担当 : 兎山 TEL : 078-261-6711

Info 2

東神戸前立腺がん治療講演会

- 日 時 : 2015年6月11日(木) 19時00分～20時15分
- 場 所 : 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演1 : 「CRPC 治療最新の知見～イクスタンジの使用経験を踏まえて～」
座長 : まつもと泌尿器科 院長 松本 修 先生
演者 : 神鋼記念病院泌尿器科 医長 三浦 徹也
- 講演2 : 「前立腺がん連携パスについて」
座長 : まつもと泌尿器科 院長 松本 修 先生
演者 : 神鋼記念病院泌尿器科 部長 山下 真寿男
- その他 : ・日本医師会生涯教育認定単位 1単位申請しております。
・当日は軽食をご用意しております。

Info 3

神戸外傷セミナー

- 日 時 : 2015年6月11日(木) 19時00分～21時00分
- 場 所 : ANA クラウンプラザホテル神戸9階リнден (神戸市中央区北野町1 TEL078-291-1121)
- 講演1 : 「臨床応用を目指した新規骨折治療促進法の研究」- 炭酸ガス療法とCD34陽性細胞移植 -
座長 : 神鋼記念病院 整形外科部長 武富 雅則
演者 : 神戸大学医学部附属病院 整形外科 特命講師 新倉 隆宏 先生
- 講演2 : 『腎臓にやさしい整形外科医とは ～鎮痛薬の選択に関連して～』
座長 : 独立行政法人 神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院
整形外科部長 安田 義 先生
演者 : 独立行政法人 国立病院機構京都医療センター
腎臓内科 医長 瀬田 公一 先生
- その他 : 講演は日本整形外科学会専門医教育研修単位に認定されています。

Info 4

メトホルミンミーティング in 神鋼 (仮)

- 日 時 : 2015年6月25日(木) 19時00分～20時15分
- 場 所 : 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演1 : 「未定」
演者 : 糖尿病代謝内科 科長 竹田 章彦

Info 5

第15回 研究カンファレンス (個の医療研究会共催)

- 日 時 : 2015年6月26日(金) 18時30分～19時30分
- 場 所 : 神鋼記念病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演1 : 「がん抑制遺伝子の破綻病態と治療戦略～ Hippo シグナル経路を中心として～」
演者 : 九州大学生体防御医学研究所 ゲノム機能制御学部門
ゲノム腫瘍学分野 鈴木 聡 先生
- その他 : 日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。
- お問い合わせ先 : 総合医学研究センター 担当 : 兎山 TEL : 078-261-6711

Medical News

2015年5月
Vol.95

Shinko
Hospital

Contents

- * 神鋼記念病院救急センターの歩みとこれから
- * 感染症科医のつづやき
- * 開業医探訪「きもと内科クリニック」
- * NEW DOCTORS
- * お知らせ
- ・講演会のご案内

神鋼記念病院理念

地域医療に貢献し、信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に努力します。

社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47
TEL : 078-261-6711 (代表)
FAX : 078-261-6726
URL : <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者 : 理事長 山本 正之
編集責任者 : 神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

患者教室などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 検索

<http://www.shinkohp.or.jp/>

Medical News 2015

5

神鋼記念病院 救急センターの歩みとこれから

新緑が映え、気温も上昇し行楽には最適の季節となりました。皆様ご存知かと思いますが、4月より病院名が社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院となりました。

また、3月には電子カルテシステムの導入を行い、今まで以上の院内での連携強化を図ると共に、新たに多くのスタッフが加わったことにより院内も明るく初々しさが増した反面、ちょっと落ち着かない日々が続いています。

増加傾向にある救急車出動台数に対応するべく

救急センターも今年で8年目の春を迎えました。皆様もお耳にされたことがあるかと思いますが、全国的に救急車の出動台数は右肩上がりの増加傾向にあります。受け入れ病院が見つからず、不幸な結末に至ったというニュースも聞こえてきます。

患者さんの状態別では、重症患者数に大きな変化はありませんが、軽症患者さんの搬送依頼が増加しているようです。しかし、その軽症患者さんの中に重症患者さんが紛れていることがあるこ

とから、重症患者さんと軽症患者さんで対応を変えることは出来ず、救急の現場はよりいっそう厳しくなっているのが現状です。

そういう環境下で、神戸市内の救急医療体制は神戸市立医療センター中央市民病院、兵庫県災害医療センター、神戸大学医学部附属病院が三次救急施設として役割を果たし、二次救急施設としてその他の病院が輪番制で様々な疾患に対応しています。昨年度の神戸市内の救急車搬送依頼件数は、三次救急を除くと約43,000件になります。その中で当院の救急センターの救急車搬送件数は約3,700件となり、神戸市内で最も救急患者さんの受け入れに協力している病院となりました。

重症患者さんに速やかに専門的な医療を提供

当センターの役割は大きく2つあります。一つは地域住民が安心して生活できるように医療面のサポートをしていくこと、もう一つは一次医療を担っておられる開業医の先生方が安心して医療が行えるようにバックアップしていくことで

す。この役割を果たすためには、患者さんの受け入れ数を上げていくことが大切だと考えています。

救急センターのベッド数は7床、診察室は3室、うち1室は隔離対応の診察室となっており、救急患者の受け入れ許容数としては比較的多い施設に入り、設立当初から相当数の救急患者さんの受け入れを行っています。

また、当センターの特徴でもある循環器内科、脳神経外科、腹部外科の3つのホットラインを運用することにより、重



神鋼記念病院 救急センター長
吉松 昭和
Harukazu Yoshimatsu

平成6年に山口大学を卒業。日本内科学会指導医、呼吸器内科を専門とする。

症患者さんに速やかで専門的な医療の提供が行える環境を整えています。

各科専門医が必ずバックアップをする体制を構築

当センターには救急専門の医師がおりません。そのため一昨年までは外科系の救急依頼には、まず各科の医師に受け入れ可能かの問い合わせを行い対応してきました。その結果、外科系の医師が手術中や処置中の場合は対応困難となり、かかりつけの患者さんも断るケースがありました。そこで、一部症例を除いて救急患者さんの初期対応をすべて内科医が行い、その後各科の専門医が必ずバックアップをするという新しい体制を構築しました。

バックアップ体制をとることにより、内科・外科の垣根がなくなり、日常の診療にも円滑さが生まれています。また、頭部外傷などの症例でも、不整脈などの循環器疾患が隠れていることも稀ではありません。こうした内科医の診断力の向上には、救急での診療が非常に役立ちます。今までのところ、バックアップ体制が不十分で問題になった症例は無く、院内のスタッフが協力し合って頑張っている成果だと思っています。さらに、平日日勤帯での救急患者さんの受け入れを断ることがかなり減少しました。

このような体制で診療を行うことにより、救急隊の方が患者さんの搬送に苦渋した際には、当院に依頼されるようになってきているかなと感じています。

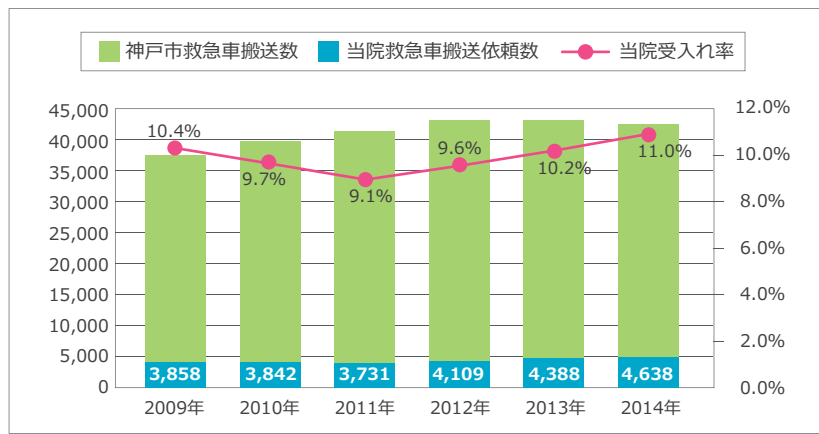
私は、研修医とともに年に一度救急車同乗実習を行い、救急の現場を直に体験しています。その際、救急隊員が搬送病院の選定にとっても苦労しているのを見えています。ですので、私は救急隊員も救急センターの一員だと考えています。救急隊員の負担が少しでも軽くなるよう、今後でもできる限り救急受け入れに協力していきたいと思っています。

しかし、受け入れ患者が増えることによ

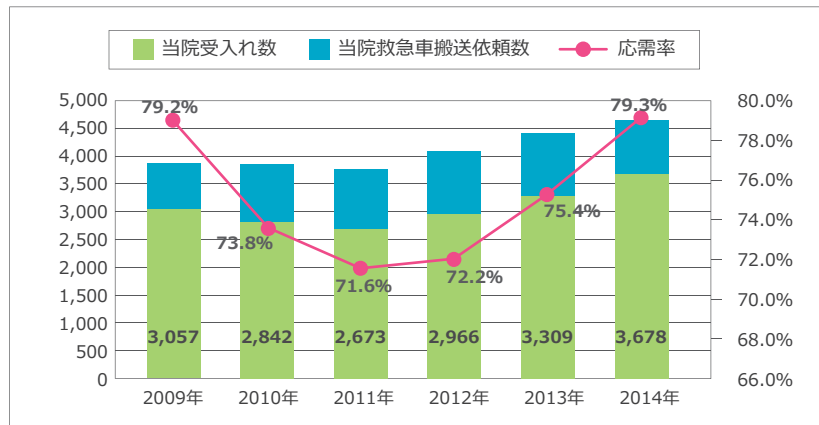
り救急センターのマンパワーが不足する傾向にはなってしまうことも事実ですが、多くの症例を経験することはスタッフの財産になると信じています。もちろん、事故が起きては元も子もありませんので安全面の確保もできるような人員の拡充も行っております。

救急医療に携わって、最近感じること

救急医療に携わって、最近感じることは独居の高齢者が増えていることです。この方々の健康維持に尽力されているのが地域の開業医の先生方かと思えます。先生方は、忙しい中でも一生懸命往診などを行い、地域住民のために頑張っておられ、頭の下がる思いです。その先生方に救急センターとして出来ることは、救急隊員と同様に先生方の負担を軽減するために、できる限りバックアップ



グラフ1 神戸市救急搬送数と当院の受け入れ数



グラフ2 当院の受入れ依頼件数・受け入れ数・応需率

をすることだと考えています。そうすることによって、先生方が安心して地域住民の診療を行うことができれば、神戸市内の医療体制はしっかりとしたものになっていくと思っています。先生方が御不満に思うこともあるかと思いますが、その際にはお手数ですが御指導いただきますようお願いいたします。

救急センターも地域医療連携室などと協力しながら、先生方の施設とより良い医療システムを構築していけたら素晴らしいことだと思っています。

今後、神鋼記念病院救急センターが先生方の診療のお役に立てるよう努力していきたいと思っておりますので、今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

【エボラ出血熱（EVD）の対策に何が必要か？】

前回はEVDを例に挙げ、海外の風土病の診断についてお話ししました。EVDの流行規模は縮小していますが、まだ終息しておらず、検疫所等での警戒は続けられています(4月15日現在)。

EVD疑い患者さんは、第一種感染症指定医療機関だけを受診してくれるとは限りません。では、EVD疑い患者さんが受診した場合、我々はどのように対応すればよいのでしょうか。理論上は「標準予防策+接触感染予防策」だけでよいのですが、EVDの死亡率が非常に高いことから、実際には「飛沫感染予防策+空気感染予防策」も必要とされています。つまり、「手袋、ブーツカバー、撥水性のガウン、頭や首を覆う

フード、N95マスク」等からなる使い捨ての個人防護具を着用しなければならないのです。考えただけでうんざりしますね。でもそうしなければ、我々の命は危険にさらされるかもしれないのです。

皆様は、手洗いや手指消毒が習慣になっているでしょうか。耐性菌が検出された患者さんに触れる時に手袋やガウンをきちんと着用しているでしょうか。「基本問題(標準予防策、感染経路別予防策)」の出来ない人が「応用問題(EVD対策)」に取り組んだらどのような結果になるか。考えるまでもないでしょう。

患者さんの命だけでなく自分の命を守るためにも、普段から基本を大事にしたいものです。

開業医探訪 inquires into a doctor Vol.19

【内科・消化器内科】

きもと内科クリニック

スタートから4年目を迎えたこの「開業医探訪」。今回は阪神岩屋駅の南、シマブンビル・BBプラザ内にある「きもと内科クリニック」を訪問致しました。

【診療を開始されてどれくらいになりますか？】

活気ある新しい地で頑張ろうと思い、平成23年5月に開業致しました。今年で5年目になります。

【どのような患者さんが来院されますか？】

会社帰りの方やHAT神戸にお住まいの方々がよく来院されています。年齢層としては比較的若い方が多いことが特徴です。また、早朝に胃カメラ、昼休みには大腸ファイバーを施行しておりますので、検査で来院される方もおられます。そして、総合内科専門医をこのたび取得し、軽度の糖尿病や高血圧などかかりつけ医としても診療しています。

【診療にあたり心掛けていることは何ですか？】

患者さんの話を傾聴し、説明を丁寧に行なって納得して帰って頂けるように心がけております。そしてスタッフ一丸となって親切・丁寧な対応に努めています。また、診診連携・病診連携を密にし、この地域でよい医療を提供できればと考えています。

【ひとこと】

診療内容やスタッフを含めた接遇を通じて、患者満足度が高まり「また受診したい」と思って頂けるよう頑張っていきたいです。また、外科手術が必要な時の腹部救急ホットラインは大変有り難く思っております。今後も病診連携・診診連携の強化に努めてまいります。

information

- 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号
シマブンビル・BBプラザ3階
- TEL : 078-801-8066
- 診療科 : 内科・消化器内科
- 休日 : 木曜午後、土曜午後、日曜、祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:30~16:00	予約	-	予約	-	-	-
16:00~19:00	○	○	○	x	○	x

